



整理してみましょう。

* 『カトリック新教会法典』には、「すべてのキリスト信者(注：信徒・修道者・司祭を含む)は、キリストにおける新生のゆえに、尊厳性においても行為においても真に平等であるから、みな、それぞれ固有の立場と任務に応じて、キリストの体の建設に協働する」(第208条)とあります。信徒・修道者・司祭は、何が平等で何が異なるのか、またそれはどういう姿を指しているのか分ち合ってみましょう。

◇分ち合いのテーマ◇

な責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

修道者にとっては、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

大きな役割を担うことは、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

信徒の働きは、決して司祭や修道者の役割を軽減するということではありません。司祭や修道者にとっても、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

信徒の働きは、決して司祭や修道者の役割を軽減するということではありません。司祭や修道者にとっても、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

信徒の働きは、決して司祭や修道者の役割を軽減するということではありません。司祭や修道者にとっても、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

信徒の働きは、決して司祭や修道者の役割を軽減するということではありません。司祭や修道者にとっても、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

反対に両者の間の協力関係が十分でないとき、教会の使命は大きくそなわれることになり、信徒の働きに教会共同体が冷淡であったり、共同体との交わりがなくなって足かせとなるようなら、人びとはむしろ教会から離れたところで奉仕に生きようとする。救いの秘跡となるべき教会の役割はそこなわれ、教会の中から福音的な働きは消え去り、塩は味を失い、キリストの強い願いと大きな犠牲性は、実を結ばないままにされてしまいます。

信徒の働きは、決して司祭や修道者の役割を軽減するということではありません。司祭や修道者にとっても、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

信徒の働きは、決して司祭や修道者の役割を軽減するということではありません。司祭や修道者にとっても、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

信徒の働きは、決して司祭や修道者の役割を軽減するということではありません。司祭や修道者にとっても、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

信徒の働きは、決して司祭や修道者の役割を軽減するということではありません。司祭や修道者にとっても、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

信徒の働きは、決して司祭や修道者の役割を軽減するということではありません。司祭や修道者にとっても、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

信徒の働きは、決して司祭や修道者の役割を軽減するということではありません。司祭や修道者にとっても、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

信徒の中には、困難に苦しむ人びとのために働き、人びとの必要のために奉仕されている方も、福音的な働きをしておられる方もたくさんおられます。そのような方々が、司祭との連携のもと、教会共同体との交わりや協力のうちに働くことができるなら、キリストによってゆだねられた奉仕は、より豊かな実りを結びよくなるでしょう。単に人材や経済的な面での支援だけでなく、活動が真にキリストの願いに沿ったものとなり、また動員に呼びかけるだけでも進んではいきません。両者が、車の両輪となって取り組むことが、信徒の働きは、決して司祭や修道者の役割を軽減するということではありません。司祭や修道者にとっても、信徒の力を今まで以上に高めるといふ、これまでも増して重い新たな責任を担うこととなり、いっそう献身的な奉仕が求められるのです。

14. 信徒と司祭の協力が絶対に必要!